

2017年3月期第2四半期 決算説明会

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部:9037



【掛川センター】

- I. 2017年3月期第2四半期概況
- II. 2017年3月期 下期に向けて
- III. 2017年3月期第2四半期実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

※本会社説明資料は、2013年8月13日発表の訂正短信に基づき、2011/3～2013/3の数値を訂正しております。

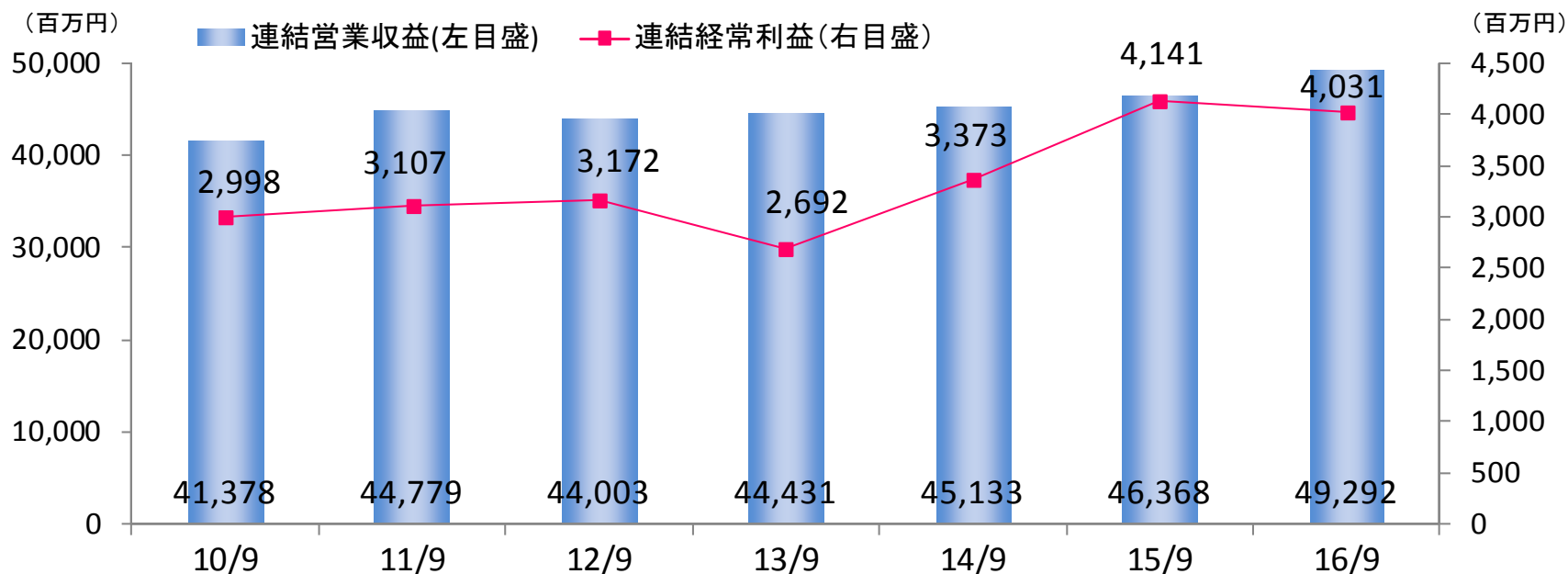
I . 2017年3月期 第2四半期概況

I-1. 2017年3月期第2四半期の業績

営業収益は、492億92百万円 (前年同期比 +6.3%)
 経常利益は、40億31百万円 (前年同期比 -2.7%) の増収減益

項目	対前期比	対計画比	対前期比増減要因
営業収益 49,292百万円	+2,924百万円 (+6.3%)	+292百万円 (+0.6%)	・物流センター事業での運営の充実と新規稼働したセンターが順次業績に寄与 ・連結子会社の増加・同業他社との取引拡大
営業利益 3,844百万円	△180百万円 (△4.5%)	△56百万円 (△1.4%)	・物流センター事業での新規立上コスト発生による利益減 ・貨物自動車運送事業での幹線便の抑制及び連結子会社の増加による利益増
経常利益 4,031百万円	△109百万円 (△2.7%)	+31百万円 (+0.8%)	・営業利益減による影響 ・太陽光発電設置増加による利益増 ・新株発行費用減による利益増
親会社株主に帰属する 四半期純利益 2,342百万円	+10百万円 (+0.5%)	+192百万円 (+9.0%)	

I-2. 収益構造



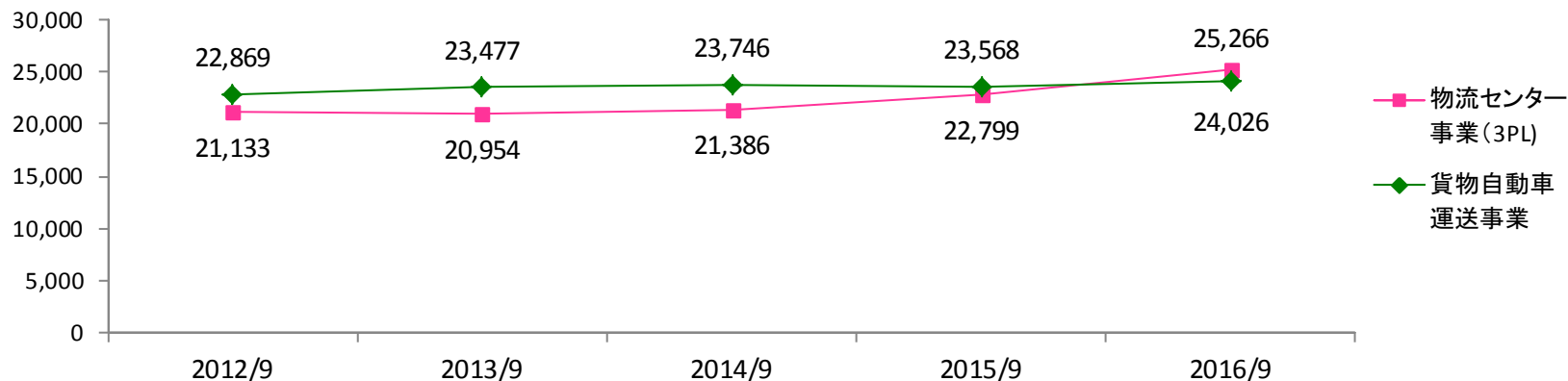
	連結業績
営業収益	4期連続 増収(過去最高)
営業利益	減益
経常利益	減益
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3期連続 増益(過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(連結:百万円)

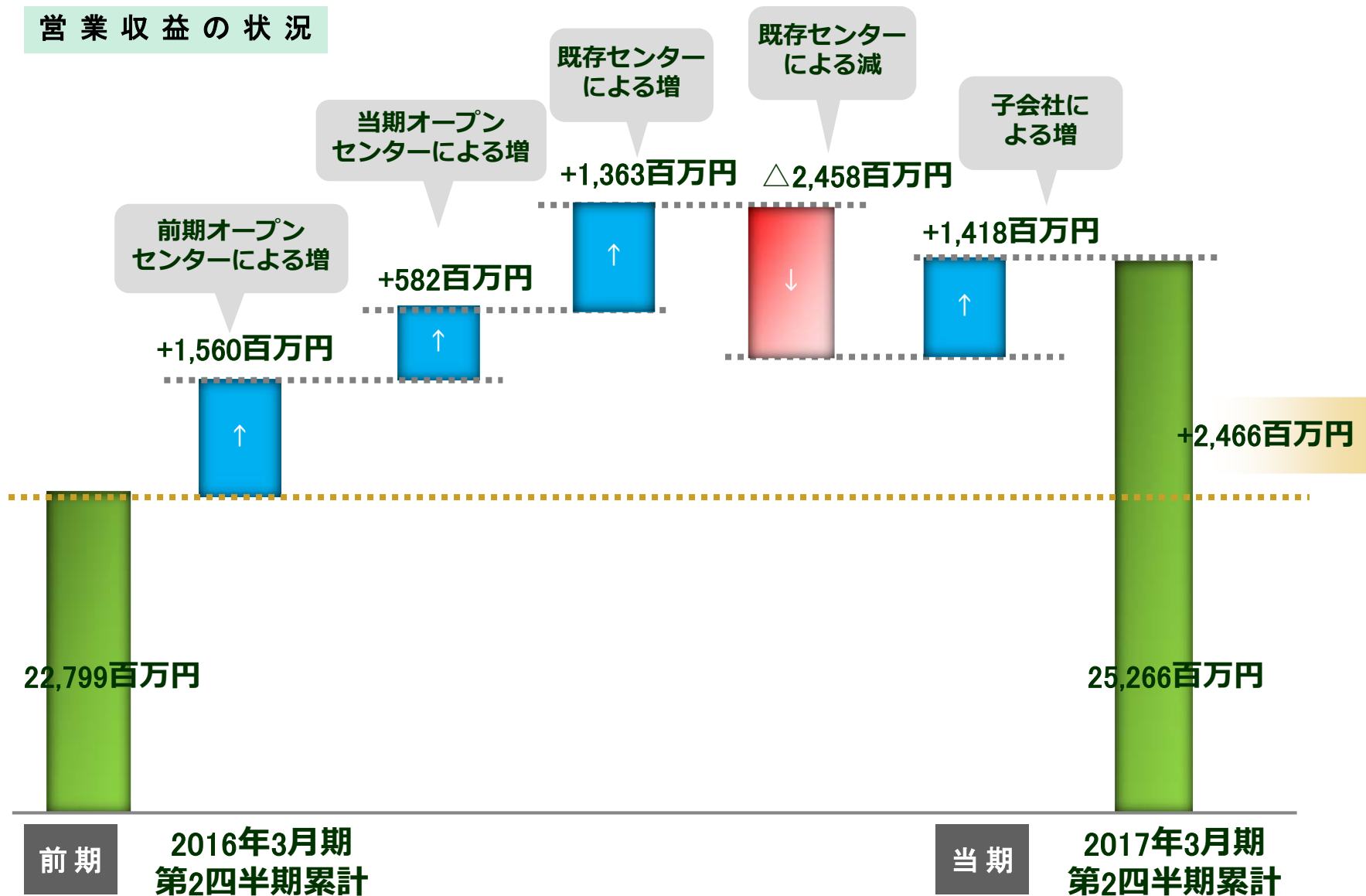
		2012/9 (構成比:%)	2013/9 (構成比:%)	2014/9 (構成比:%)	2015/9 (構成比:%)	2016/9 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	21,133 (48.0%)	20,954 (47.2%)	21,386 (47.4%)	22,799 (49.2%)	25,266 (51.3%)	+2,467 (+10.8%)
	営業利益	2,396	1,813	2,309	2,676	2,405	△271
貨物自動車 運送事業	営業収益	22,869 (52.0%)	23,477 (52.8%)	23,746 (52.6%)	23,568 (50.8%)	24,026 (48.7%)	+457 (1.9%)
	営業利益	678	784	839	1,346	1,436	+90

営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況



I-5. 物流センター事業の稼働状況

新規受託及び稼働

取扱品目	① 前期受託 未稼働	② 当期 受託	③ 稼働		④ 当期 未稼働	①+②-③-④ 未稼働memo
			既存※1	新規※2		
食品		1社			1社	
繊維・アパレル	1社	5社	2社	3社	1社	
医薬・医療					-	
雑貨		1社	1社		-	
計	1社	7社	3社	3社	2社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

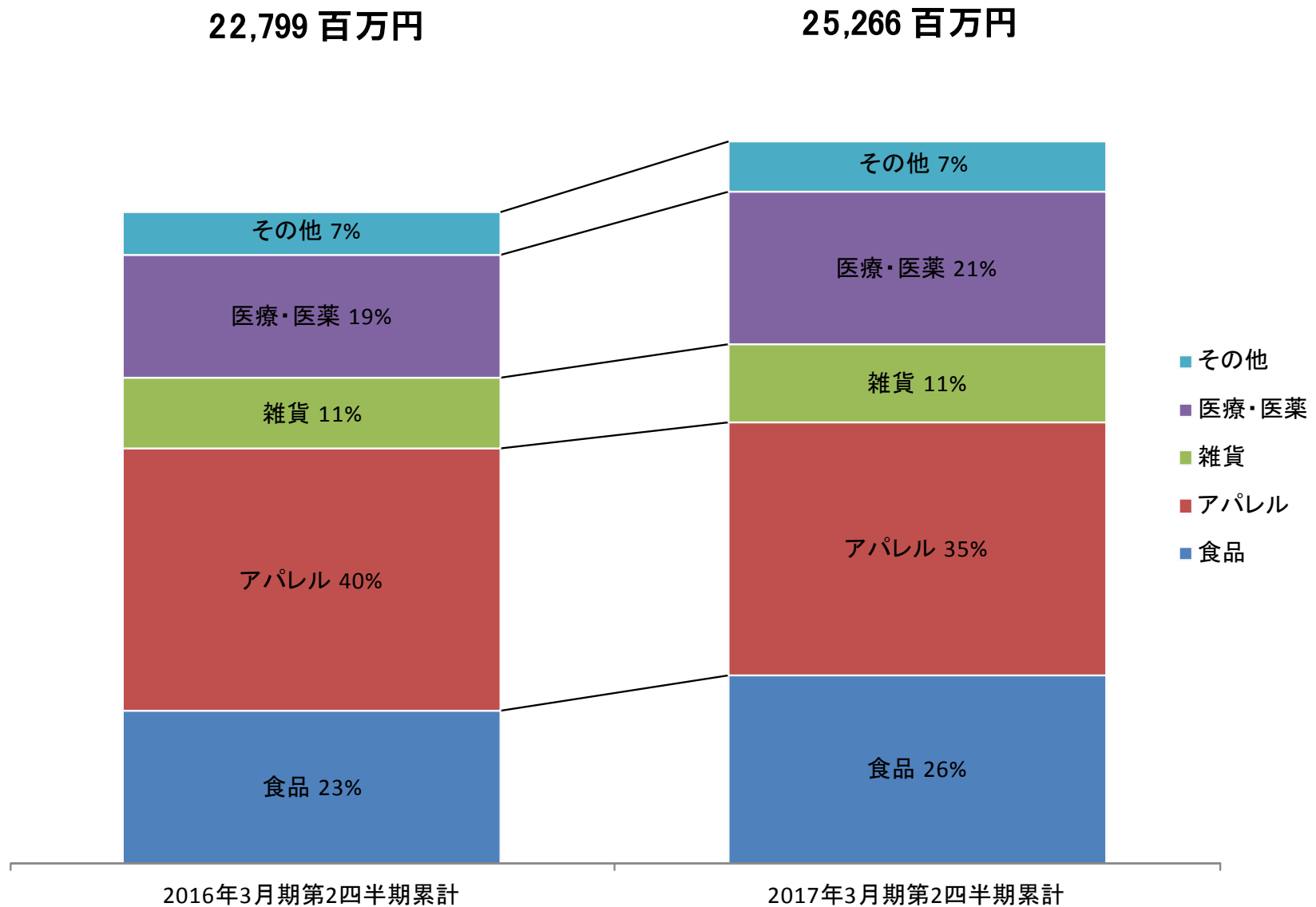


物流センター数

2016年9月30日現在

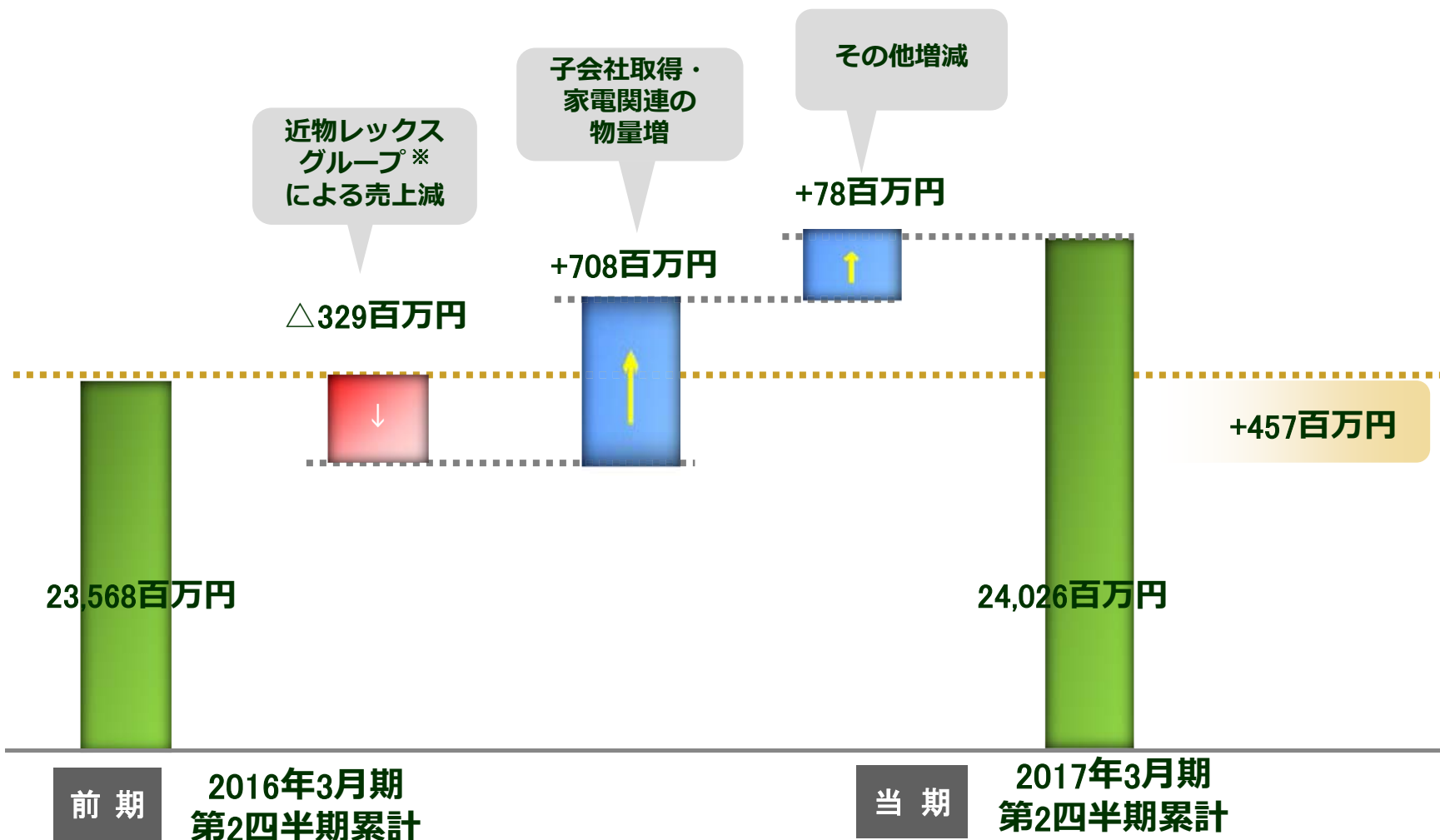
自社センター	30 (301,327㎡)
借用センター	62 (570,346㎡)
計	92 (前年度末比+5)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス(株)とその子会社3社です。(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株))

Ⅱ. 2017年3月期 下期に向けて

Ⅱ-1. 2017年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	101,000	+5,795 (+6.1%)
営業利益	8,800	+691 (+8.5%)
経常利益	9,000	+677 (+8.1%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,000	+273 (+5.8%)
設備計画	3,000	***

(平成28年10月27日公表数値)

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	51,100	+4,120	(+8.8%)
	営業利益	5,700	+383	(+7.2%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	49,900	+1,675	(+3.5%)
	営業利益	3,100	+310	(+11.1%)

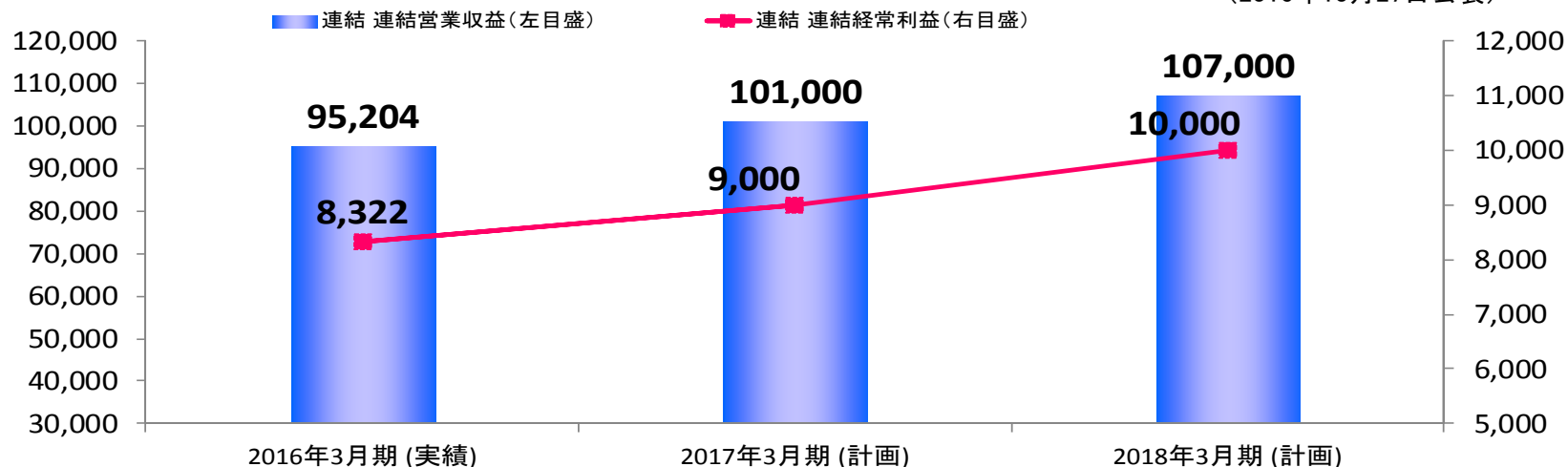
Ⅱ-2. 中期経営計画

(百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (計画)	2018年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	95,204	101,000	107,000
経常利益	8,322	9,000	10,000
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,726	5,000	5,300
1株当たり当期純利益	257.79	263.10	278.90
営業収益経常利益率	8.7%	8.9%	9.3%
設備投資計画	156億円	30億円	90億円

1株当たり当期純利益は、公募増資、第三者割当増資及びオーバーアロットメントによる当社株式の売出に関連した第三者割当増資、株式分割を考慮して算出しております。

(2016年10月27日公表)



Ⅱ-3. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、**提案型物流企業**をめざす
新たに支社制を導入し、管理強化及び判断のスピードアップを図る
センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

2. 3つのキーワードを中心とした取組みの継続

「日々収支」「**全員参加**」「**コミュニケーション**」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦してまいります

3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

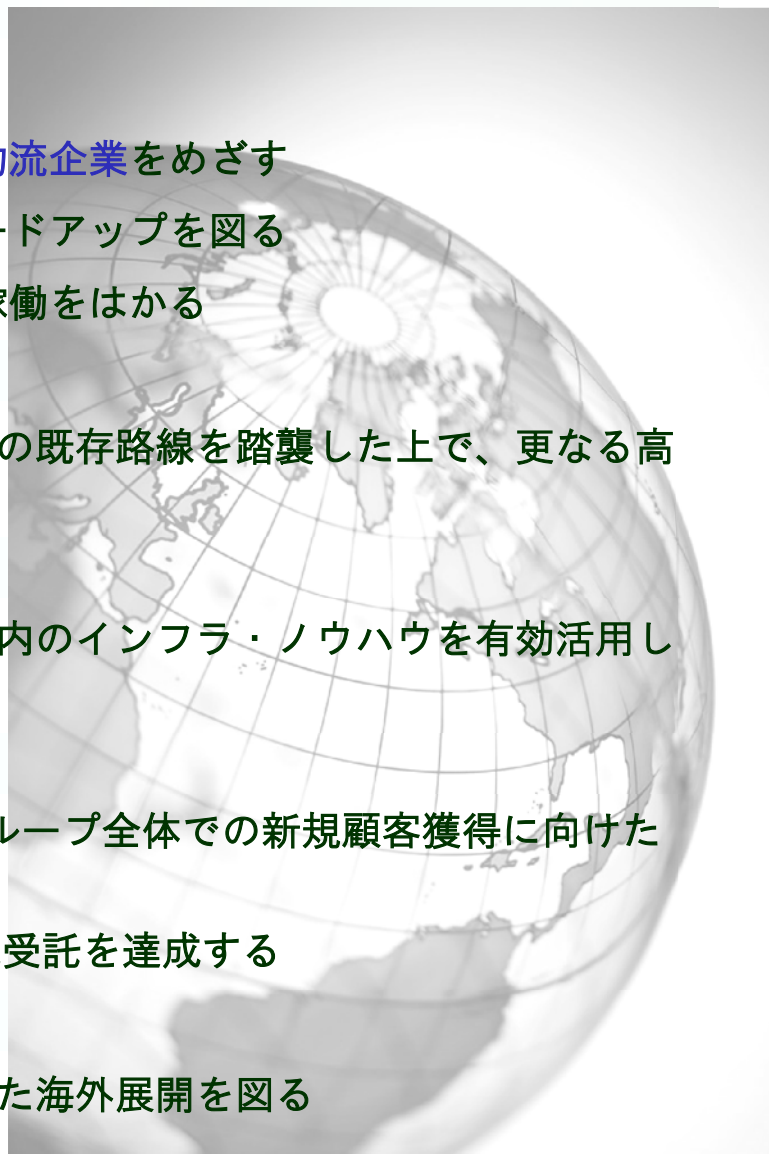
4. 新規顧客獲得に向けた取組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標**15社以上**の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



Ⅲ. 2017年3月期 第2四半期決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(連結:百万円)

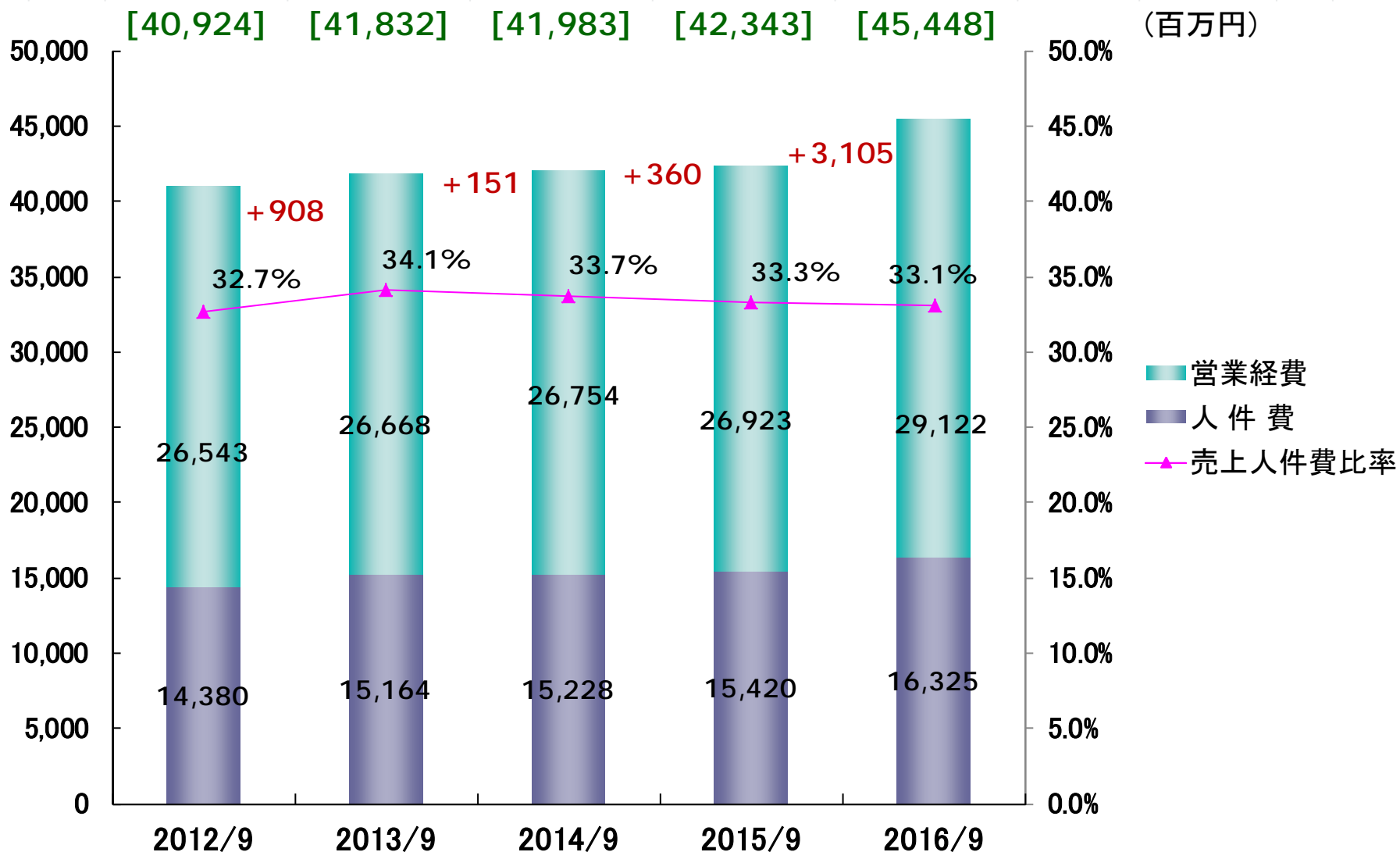
	第1四半期			第2四半期		
	2016/6	前期比 (増減率)	利益率	2016/9	前期比 (増減率)	利益率
営業収益	24,673	+1,607 (+7.0%)	—	24,618	+1,317 (+5.7%)	—
営業利益	1,974	△45 (△2.2%)	8.0%	1,869	△134 (△6.7%)	7.6%
経常利益	2,075	△20 (△1.0%)	8.4%	1,956	△89 (△4.4%)	7.9%
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1,186	+15 (+1.3%)	4.8%	1,156	△4 (△0.4%)	4.7%

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

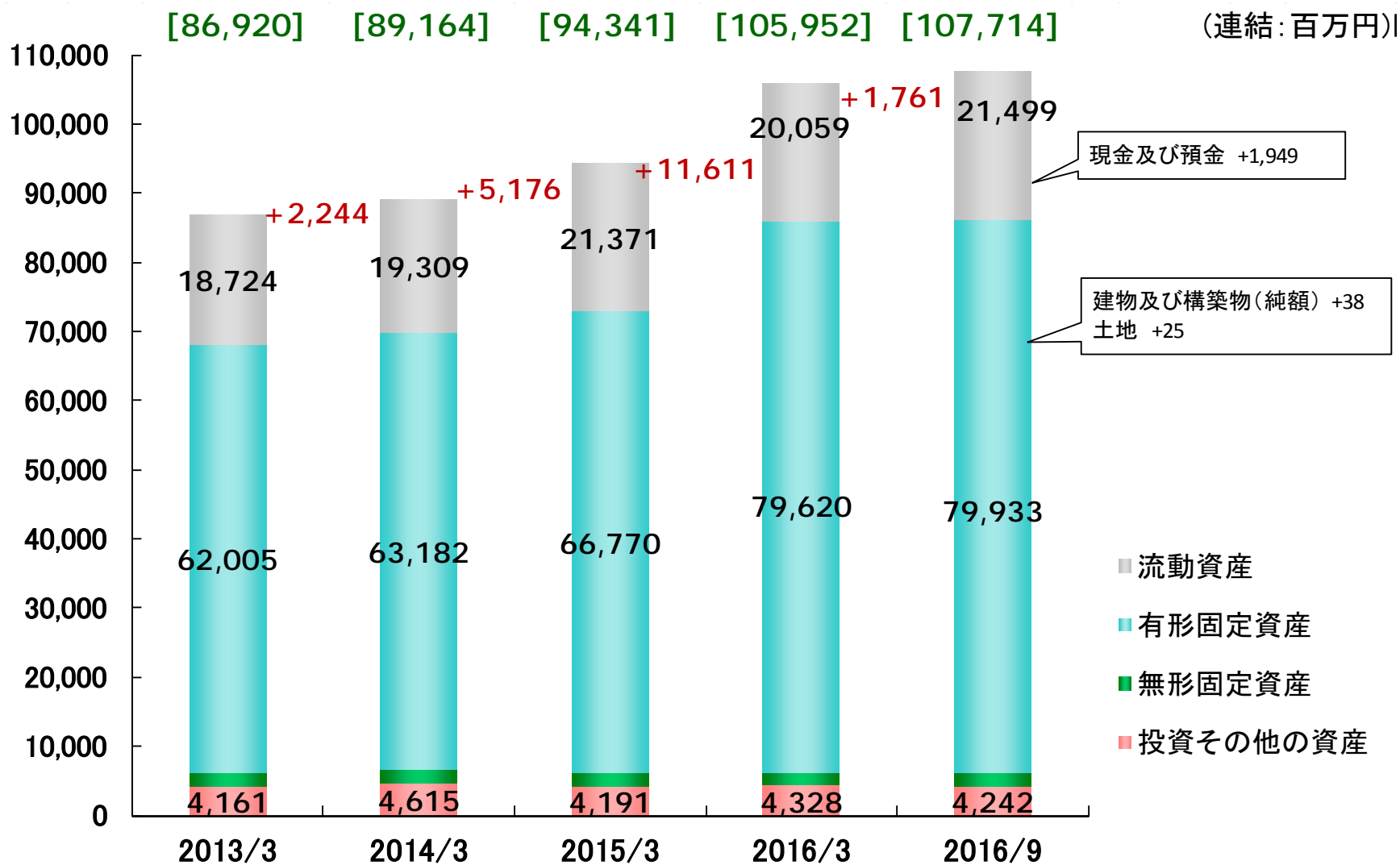
(百万円)

		第1四半期 (4~6月)		第2四半期 (7~9月)		第2四半期累計 (4~9月)	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	12,644	+1,414 (+12.6%)	12,621	+1,052 (+9.1%)	25,266	+2,466 (+10.8%)
	営業利益	1,269	△100 (△7.3%)	1,135	△171 (△13.1%)	2,405	△271 (△10.1%)
貨物自動車運送	営業収益	12,028	+192 (+1.6%)	11,997	+265 (+2.3%)	24,026	+457 (+1.9%)
	営業利益	702	+54 (+8.4%)	733	+35 (+5.1%)	1,436	+89 (+6.7%)

Ⅲ-3. 経費・人件費

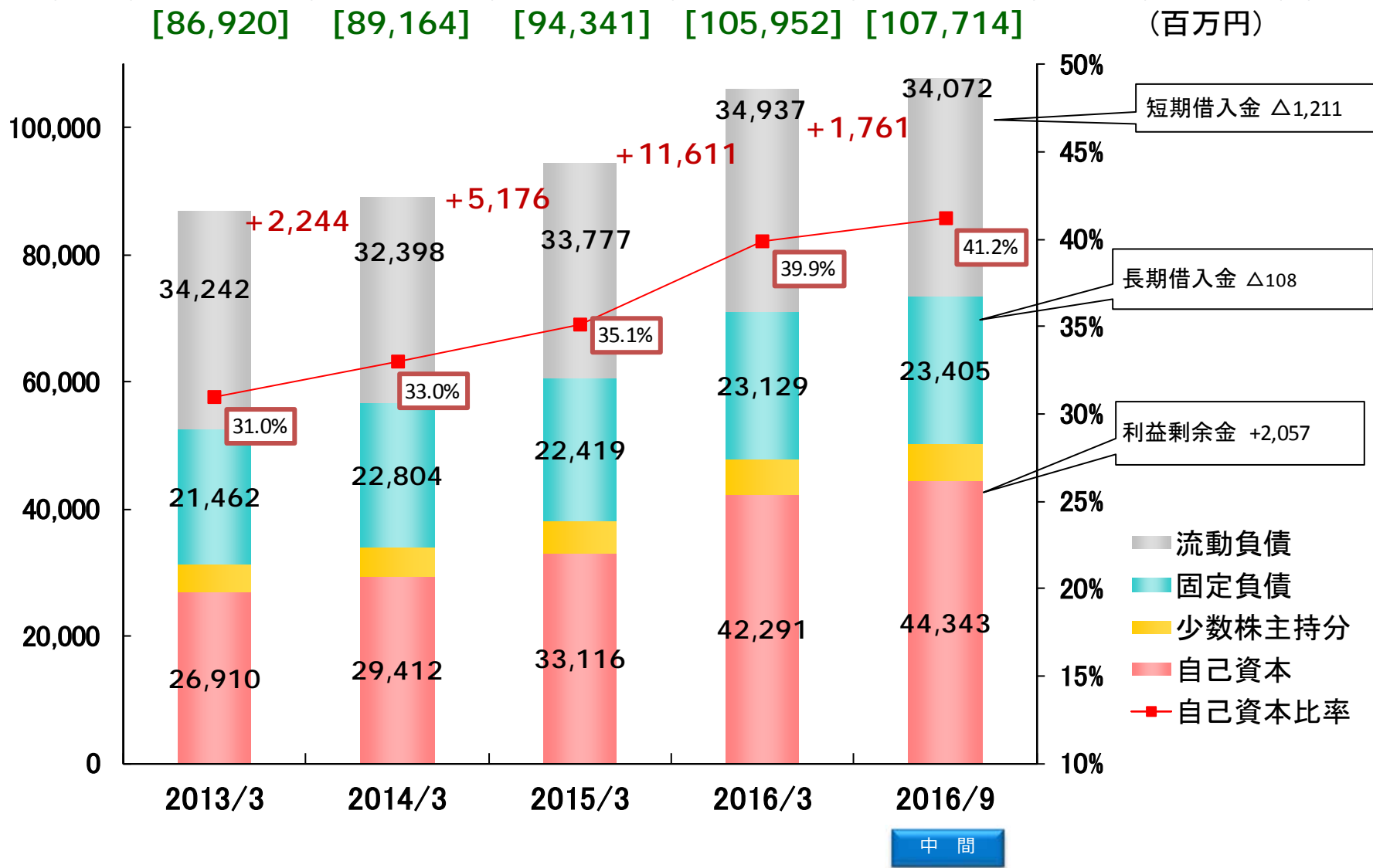


Ⅲ-4. 貸借対照表 <資産>

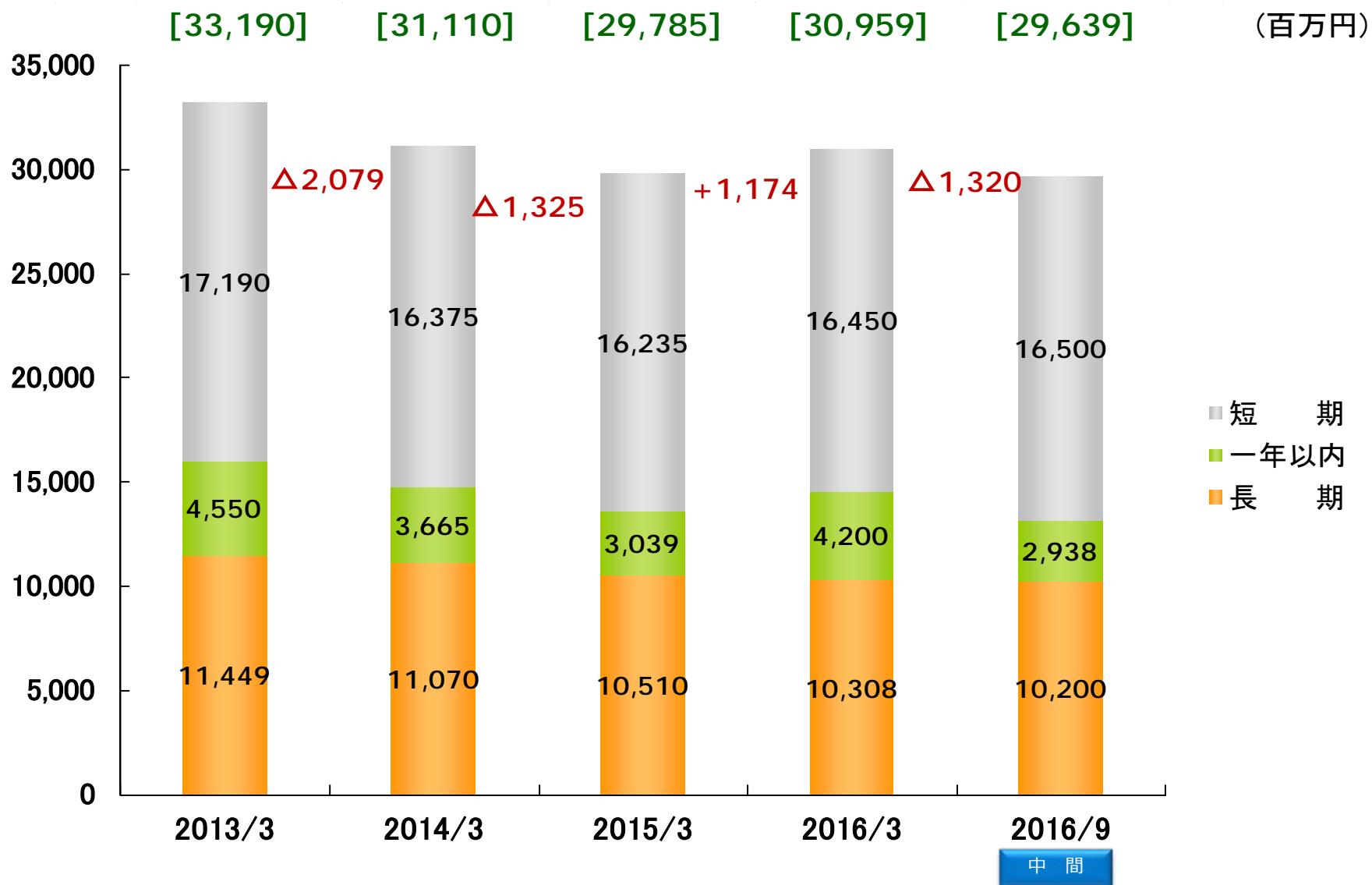


中間

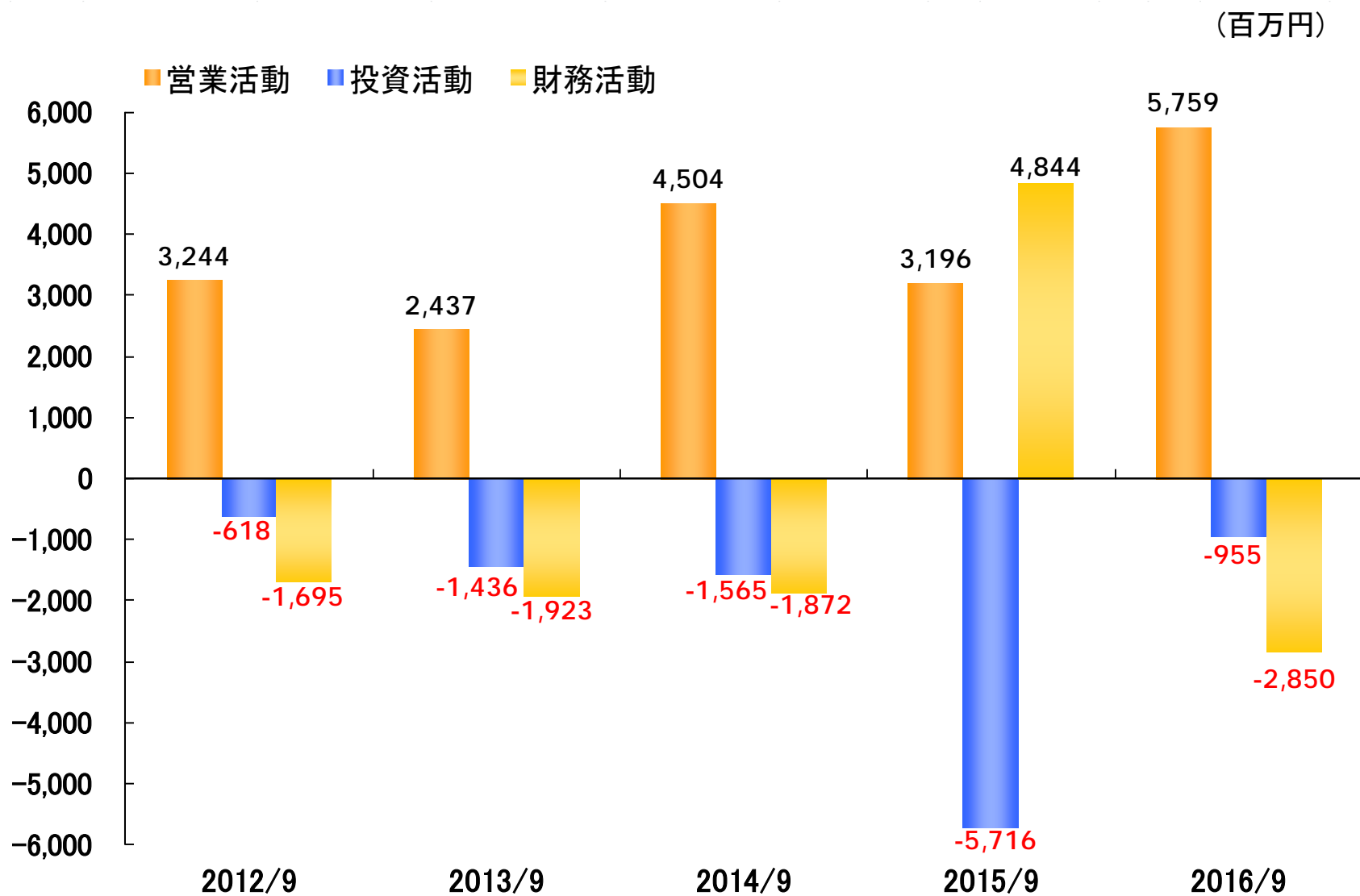
Ⅲ-5. 貸借対照表〈負債・純資産〉



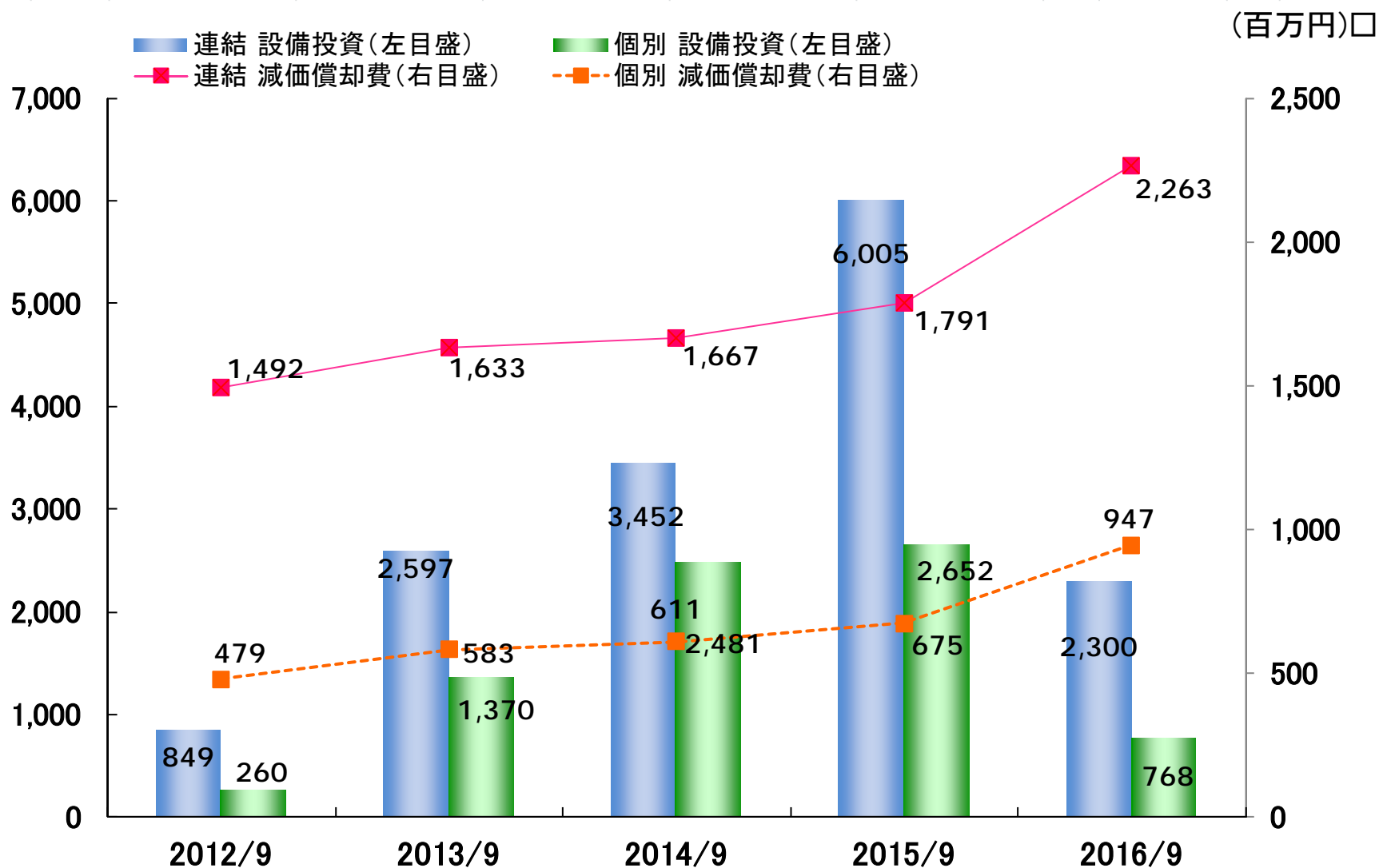
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略

IV-1. 2017年3月期第2四半期の業績

営業収益は、176億 49百万円（前年同期比 -2.2 %）
 経常利益は、8億 61百万円（前年同期比 +11.4%）の減収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 17,649百万円	△390百万円 (△2.2%)	△742百万円 (△4.0%)	・8月中旬以降の物量減少が顕著であった
営業利益 854百万円	+94百万円 (+12.5%)	△107百万円 (△11.2%)	・燃料費用の負担減少(単価の変動) ・固定費用の減少(賃借) ・運送委託料の増加
経常利益 861百万円	+88百万円 (+11.4%)	△84百万円 (△8.9%)	・金融費用の減少 ・売電収益の拡大 ・車両売却益の減少
当期純利益 534百万円	+34百万円 (+6.9%)	△44百万円 (△7.6%)	

IV-2. 近物レックスの下期取組み

1. 収益性の向上

- ・収入確保の取組みを具体化
- ・新拠点での輸送力の強化(本宮)
- ・輸送の効率化(共同集配・共同運行)

2. 輸送の安全

- ・3大事故(車輻・労災・商品)の撲滅
- ・デジタコ装着の完了

3. 雇用促進

- ・高校生採用(準中型免許制度)
- ・新賃金体系の構築



IV-3. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	見込	計画	
	2017/3	2017/3	計画比 (増減率)
営業収益	35,800	37,209	△1,409 (△3.7%)
営業利益	1,928	2,089	△161 (△7.7%)
経常利益	1,903	2,035	△132 (△6.5%)

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、地味ではあるが信頼された重要な存在。当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。

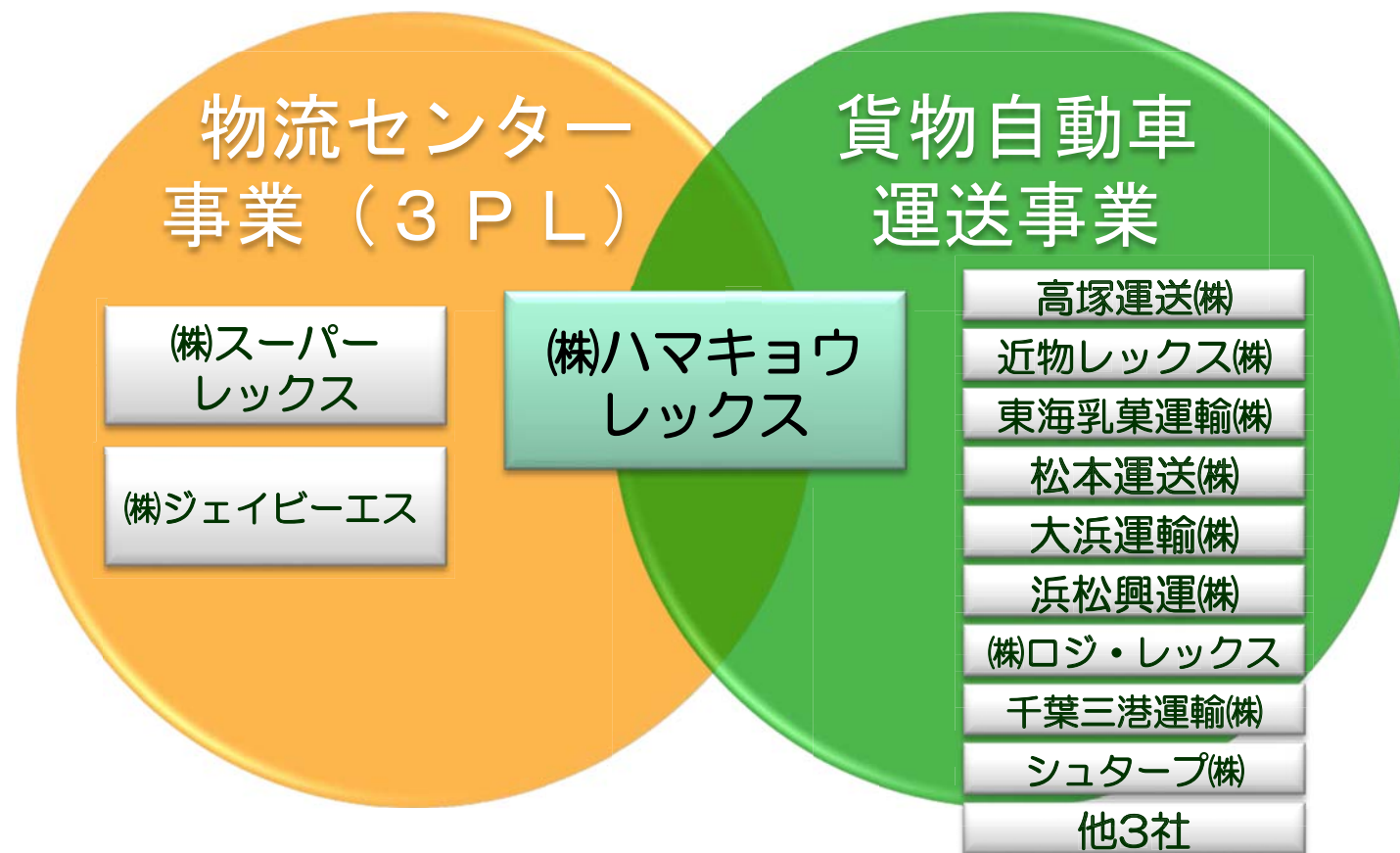


会社概要（2016年9月30日現在）

● 社名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
● 設立	昭和46年2月
● 資本金	65億4,733万円
● 決算期	3月31日
● 従業員数	連結 4,272名、単体 765名
● 発行済株式数	19,012,000株
● 株主数	4,013名
● 事業内容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
● 連結子会社	14社
● 売上高	連結 492億92百万円 単体 198億89百万円
● 経常利益	連結 40億31百万円 単体 22億00百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



社名	シュタープ株式会社
本社所在地	新潟県新潟市北区木崎字尾山前871番16
代表者	代表取締役社長 小式沢 紘
設立	平成21年4月
資本金	30百万円
事業内容	物流業、食品加工業
従業員	96名（平成28年9月30日現在）
売上高	14億18百万円 （平成28年9月30日現在）

主な事業内容

1. 物流事業

共配システムを活用し、生産地から店舗までのリードタイム削減とコストダウンを実現させた物流。

車両は保冷車・冷凍車を中心に、大型、中型、小型トラックを保有。

2. 食品事業

鶏卵販売、鶏卵加工品販売、オリジナル惣菜、業務用商材販売（カット野菜、水煮、チルド商品、農産物、惣菜キット商品等）



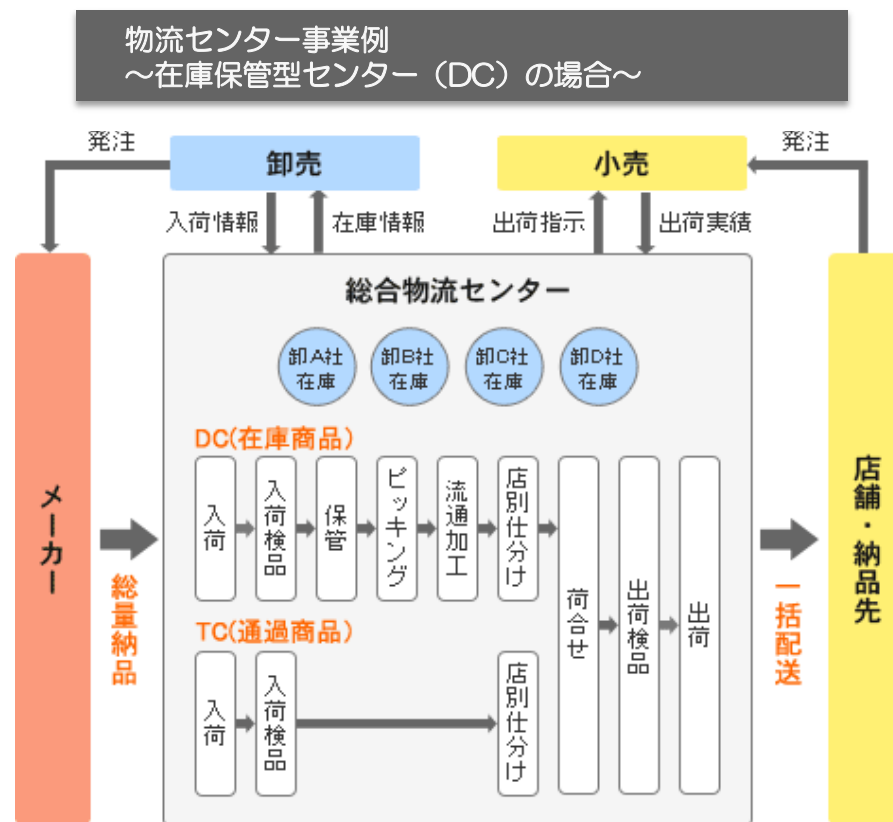
V-6. 物流センター事業

当社は**3PL(3rd Party Logistics)**をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支^{※1}**」・「**アコーディオン方式^{※2}**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

V-8. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

● 執行役員

山田 力也

● 経営企画室

竹内 義之

TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。